

令和2年度スーパーグローバル大学創成支援事業
「京都大学ジャパングートウェイ構想」における外部評価を受けて

教育担当理事・副学長 北野 正雄

本学の「ジャパングートウェイ構想」が、文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援事業」に採択され、平成26年度から本構想を開始した。開始から7年目を迎えた令和2年7月16日に全学委員会のスーパーグローバルコース実施運営協議会において、令和6年度以降の自走化実現を見据えた本構想の総括及び自己点検評価を行うとともに、本構想の第三者による客観的な評価を行うことを目的として外部評価委員会（第3回）を8月5日に開催した。

今回の外部評価委員会では、別紙のとおり、前回の外部評価委員会で示された京都大学としての国際教育研究交流の理想的な方向性・目的についての指針『「京都大学ジャパングートウェイ構想」における今後の方向性』（以下、「指針」という。）に基づく進捗状況等について、各委員から評価ならびに意見をいただくとともに、本学における取組や課題、方向性に対して本質を突いた様々な示唆を得た。

上記指針に掲げる4つの取組は引き続き本学の強みとして力点を置きながら着実に推進させていくとともに、今後はそれらの取組を学内外に積極的に展開していきたい。なお、学外への展開に当たっては、これまで構築してきた多様な国際ネットワークを戦略的に活用して、本学をこれら国際ネットワークのハブとして有機的に機能させていくことも必要と考える。また、若手研究者を中心とした次世代の卓越人材にこうした国際的活動の場を提供する等、国内外の優れた研究者や留学生、企業等に広くPRしていくことにより、国際的なプレゼンスの向上に加え、新たな産学連携の構築にも繋げていきたい。

本構想における教育・研究を持続的かつ発展的なものとし、将来的な社会変容に繋げていくうえで、外部評価委員からいただいた貴重な意見については、今後本構想を推進していくうえでの取り組むべき課題として着実に実行していきたい。

最後に、本評価に御尽力いただいた委員各位には改めて深く感謝申し上げます。